

スペイン・インターネット新聞 ギン・ギン・バリ

モロッコ軍により少年一人が死亡、その兄は重傷

ラウラ・ガリエゴ、エル=アイウン 10月25日

14歳の息子ナジェム・ガルフを失った母親は涙して「以前は私の息子でしたが、今では人民すべての息子です」と語った。日曜（10月24日）午後、この訃報はたちまちエル=アイウンの町中に伝わり、少年は人々の間で殉死者となった。彼は抗議テント村アグタイム・イジクへ向かう途中、車にモロッコ軍の発砲を受けて死亡した。

モロッコ兵士がこの車に向けて停止合図を出したが通過したため、すぐさま発砲。少年の兄ズバイルは、肩と背中に銃弾を受け重傷を負い生死にかかわる状態にある。母親にとってこれ以上の苦しみはないだろう。にもかかわらず、涙でぐしょぬれになった彼女はこう言った。「私たちの闘いは、これでますます強くなります」。

7人の子の末息子「いい子で勉強もできた子」を失った彼女は、もう一人の息子が重傷、さらにもう一人はテント村が出来た時から刑務所に入れられている。その嘆きには、慰めの術もない。だが多くの女性たちに寄り添われた彼女は、「みんなモロッコの弾圧の被害者です。最初は石が飛んできてきましたが、それが弾丸になったのですからもう人殺しです。」とはっきり語る。

サハラウィ女性に特長的なことだが、ナジェムの姉もまた母親のように力強い。「弟が殉死者となったことを誇りに思ってます。被害者は弟だけではありません。日ごと被害者は増え続けるのですから、EUと国連に対し助けを求めます。」

この家族の家では、その痛みが誰しもの胸を締め付ける。父親と叔父は病院を訪れたが、関係者からは事故死の通知を受けただけで負傷者たちを見舞うことも許されなかった。同様に女性たちも赴いてみたが、殴るなどの仕打ちを受けたという。母親は「嘘を突き通すなんて絶対に許さない。やつらが私の息子を殺したと認めるまで、私はとことん闘い続けます。」

闘士家一家だ。ナジェムのもう一人の兄はエル=アイウン郊外に抗議テントを張ったその初日、自宅に戻ったところを逮捕された。モロッコ人市長がこの家を訪れても、「歓迎されませんから」と玄関先で断られる。

今回モロッコ軍の検問で車を停めなかった件について、ナジェムの親戚や友人たちそしてこの二週間に負傷した若者たちは「止めると、下車するよう命じられて、殴られたり車の中にある物一切を持って行かれたりするからだ。」と説明する。

エル=アイウンの街は目だって人影が減っている。抗議テント村へそれだけ大勢の人々が移動したということだ。スマラ大通りは、いつもはサハラウィたちが行き交う姿が見られるところだが、今ではガランとしている。肉屋、商店、電話屋などどこも空っぽで、まるでゴーストタウンだ。

今回の銃撃により負傷した若者たちは、アラウイ・ラグダフ、ダウディ・アフメド、サレク・フィラリ、そしてアブデラフマン・フムミドでそれぞれ重軽傷を負っている。彼らは当初エル=アイウンのハサン・エル・メフディ病院へと運ばれていたが、到着寸前に取り消し命令が出て救急車は方向転換、負傷者たちは軍病院へ移送された。そしてここでは、警察が家族の出入りを禁止している。ナジェム少年の母親と姉。